



学習の成果は 出てきているか？

今年の夏も終わり、二学期も半ばに差し掛かってきた。受験生は、いよいよ本番が近づいてきたと感じている頃と思う。いや、そろそろ思っていないと困るのだが……。夏休みくらいから頑張ってきた人はそろそろ結果が始める頃だろう。

結果の出方は人それぞれ異なるので、周りの人の結果が始めても焦らずやるべきことを続けてもらいたい。もちろんきちんと学習が出来る前提であるから、普段の学習を継続して出来ていない場合は、やり方からチェックすべきである。逆にきちんと学習を継続しているのであれば、そのまま続けるしかない。模試の結果などがすぐ変わる人もいれば、なかなか変わらない人もいるのは事実である。少しでも結果につながるように、学習内容や取り組み方を見直しながら、適切なやり方を身につけていくのだから。

科目によっても成果の出方は異なる。数学が苦手な生徒でも、計算さえできるようにすれば、三十点〜四十点くらいまではすぐに取れるようになる。しかし、計算だけではそれ以上は伸びない。三十〜四十まではすぐ結果に表れ、それ以上は時間がかかる。階段状に成績が伸びる。理科が苦手な生徒は、十五くらいある単元を一つずつ克服していくと、その都度解ける問題が増えるので、やればやるほど伸びる。比例の直線のように成績が伸びる。英語が苦手な生徒は、まず単語を覚える必要がある。その上で文法事項や、熟語などを並行して学習する必要がある。

単語を少し覚えても、文法を少し学習してもなかなか得点には結び付かない。一通りの学習がきちんとできてから結果に出始める。二次関数のグラフのような伸び方をする。

ざっと説明したが、科目間でもこのように異なるので、まして人それぞれの場合、得意不得意や、学習のバランスなども絡んでくると、その伸び方は皆同じというわけにはいかないであろう。



よく「能力(才能)がないから……」という人もいる。確かに能力差は個人により存在する。持って生まれた才能や、育ってきた過程における学習の積み重ねで、すでにスタートラインが異なるのも事実だ。私がイチローと同じ練習をしたからといって、彼と同じ結果を出せたかという、たぶん無理であるし、同じ練習をしていても、どんどんうまくなる人とそうでない人がいる。

だから、勉強しても無駄だというつもりではない。皆が皆、大リーグを目指す必要はないということだ。各人が自分の能力を最大限発揮できるところで頑張ればよいと思う。だから、それぞれ目標校も違う。

結局何が言いたいのか？
そろそろ結果が欲しい時期であると思うが、思うように結果が出ないのも勉強のまた一面。ここであきらめてしまうのではなく、目標を持っているのであれば、それを目指してまだまだ継続してほしいというのが一番言いたいことである。(松永)

「我がが教室の至宝①」

そういえば我ががパーソナル柏教室の講師諸君を紹介する機会が全然無かったと思う。せっかくの機会なので紹介しておくことにしよう。

「I. H. 先生」 柏中学校出身。宿題の女王。責任感が強く、妥協を許さない。彼女の言った「単語テストのような答えが分かっているテストで満点をとらない人は単純に勉強不足」は名言である。

「H. S. 先生」 中原中学校出身。社会を論理的に分かりやすく教えてくれる。飛行機大好き先生。アクティブ派で最近日焼けが一層目立ってきた。

「O. M. 先生」 豊四季中学校出身。子供たちと話すのが大好きで、生徒からの印象は「優しい姉御」生徒と徹底的に向き合うタイプ。

「M. D. 先生」 柏第二中学校出身。とにかく明るい。いじられキャラをおいしいと素直に受け取るタイプ。デイズニリーゾートのキャストそっくり。応対姿勢は当教室筆頭。

「I. T. 先生」 芝浦工大柏中学校出身。あの細身でありながら高校時代はハンドボール部で暴れまわっていたらしい(?) 実はクールな顔からは想像できないほどの熱血漢。

「O. K. 先生」 松戸第三中学校出身。クールな理系講師。意外だが大型二輪免許を持っている。あの細い体でどうやって乗りこなしているのだろうか。他講師へのバックアップ力が素晴らしい。

「N. K. 先生」 柏第二中学校出身。いつもニコニコしているが、自分で生物の小テストを作成してくるといった熱いハートの持ち主。生徒にはニコニコしながらも延長戦をするといった妥協しないタイプ。

「K. M. 先生」 松戸第一中学校出身。女子生徒から絶大な人気を誇る女性講師。優しいお姉さんだが、勉強面ではできない箇所をしつこく指導することにこだわりを見せている。

「H. T. 先生」 芝浦工大柏中学校出身。中高

大と体育会所属。甘い顔からはなかなか想像できない。部活動ばかりやっていたので体格は完全にアスリート。

「T. T. 先生」 根本内中学校出身。大学受験生のときの学習時間が凄い。ミスターストイックと教室長から一方的に言われている。冷静沉着な男性講師。

「A. Y. 先生」 柏第四中学校出身。我が教室の頭脳。漸化式を二十分で指導し、マスターさせた理系講師の雄。高校数学受講者からの支持率が大変高い。

「T. A. 先生」 柏中学校出身。生徒目線に対応できるタイプ。お医者さんに例えるなら小児科医。そして他講師への配慮は抜群。

「Y. M. 先生」 小金南中学校出身。字が綺麗。我が教室きつての能筆家である。体育会マネージャー出身の女性講師。

残念ながら、字数の関係で今回はここまで。まだ半分も紹介していないが、今回紹介できなかった優秀で個性的な講師は次回紹介することにしよう。それが待てない方は当教室にお立ち寄りいただき、直接ご覧になっていただきたい。私が彼らを至宝と豪語することに納得することはない。(山崎)

知識の「点」と「点」

今、創学舎に在籍している中学三年生は、毎月塾内模擬試験や会場模擬試験、学校では実力テストなど、驚くほどの回数の模擬試験を受験している。約一週間後に郵送されてくる結果を見て、一喜一憂する姿を見ていると、我々講師も同じぐらい喜んで残念な気持ちになつたりする。



夏から本格的な受験勉強に取り組んでいても、この時期なかなか結果として出てこない人も多いと思う。そういう人は、沢山の情報や知識を授業や副教材から学んだが、その情報や知識が頭の中で、まだ「点」という状態で存在してしまっている人だ。すると、模擬試験などの問題を解く際、沢山の情報や知識の中から問題の解き方や答えがすぐに出てこない、問題が解けないという状態になる。勉強をしているのに点数がとれないと悩んでいる人もいるだろう。そういう人は、模試の解き直しで解説を読むと、「なんだ、知っていたのに!」という悔しい思いをしているかもしれない。頭の中にある知識の「点」がそのままだと、この状況から脱せない。

次のレベルに行くには、副教材などを諦めずにコツコツと継続してやり続けることが大事である。また、なぜその答えになるのかを解説でしっかり読んで考えながら取り組んでいくと、あるとき(副教材を一周終えたころ)から蓄積された多くの「点」と「点」が徐々に結びつきはじめる。様々な知識が網目状に結びついていき、やがて体系化、簡単にいうと知識が整理され、大きな知識のかたまり「知恵」になる。そうなれば、模擬試験で問題に出会ったときに、ちょっとしたヒントから、頭の中にある蓄積された情報から様々な解き方のヒントが出てくるようになる。

よく「〇〇くんは数学の才能(センス)があるけど、私はないから無理。」と言う人がいるが、それは違う。その教科が好きだろうが嫌いだろうが、ワーク(学校や塾や副教材から逃げずにしっかり取り組み、分からない問題があったら解説をしっかりと読み、それでもわからないときは質問をする、ということ)を毎日継続する(気分でもやる・やらないを決めない)人にはじめて「才能(センス)」が備わる。勉強に取り組んでもいない人に才能やセンスが備わるなんてことは絶対にありえない。

中学三年生は残り四ヶ月、なかなか模擬試験で結果が出ないと悩んでいる人は、是非勉強のやり方を再確認してほしい。五科目をバランスよくやっているか、毎日継続してワークや副教材を取り組んでいるか、わからない問題をそのまま放置していないか、よく考えずにただ丸暗記していないか(意味を理解していない暗記だと点と点が結びつかない。)

今からでもしっかりと丁寧に逃げずに取り組んだ先輩達は多くの人が志望校に合格している。しっかりと目標を見据えて一歩ずつ前へ進んでいこう。(長坂)

燃えろ! 受験生!



●今年もあと七十日余を残すのみ。一月中旬には、入試が始まる。中学生は茨城・千葉の私立高校入試、高校生はセンター試験。つまり、本番まで、あと三ヶ月もないということだ。みなさん。毎日、大切に過ごしていますか? 勉強は順調ですか?

●今回は、順調にきている人もそうでない人も含めて、アドバイス。

①受験の苦しさから逃れる方法が二つだけある。一つは、受験しないこと。もう一つは、何の努力もしないで合格できる所に進学すること。どうだい? 勉強がイヤだとか、受験が大変だとかいっているキミ。この二つのうちのどちらかを選べばいいじゃないか?

②目標を持たないことは、自分への裏切りだ。①のどちらかを選べといっても、実は、キミ達は納得しないだろう。そうなんだ。キミ達は本当のところ「目標に向かって進みたい」と思っているのだ。そして「楽をしたい」とか「さぼ

りたい」という気持ち(これを気分という)よりずっと深い所で、「目標を達成すること」を願っているのだ。これが願望。人間は願望を裏切ると不快に、不幸になる生き物なのだ。

③気分ではなく、願望に従って行動する。「勉強したくない」といつてさぼるのは簡単。だが、さぼり続ける受験生はどんどん暗くなる。さぼったあと、必ず自己嫌悪に襲われる。「勉強したくない」という気分が流されて「目標を達成したい」という願望を裏切っているからだ。気分は裏切つてよいが、願望を裏切つてはいけない。望ましい願望に向かって毎日を通してやるようになること。これを「成長」という。

④不安は絶対に消えない。目標高きとき、必ず不安も共にある。例えば、部活の試合で、相手が弱小であれば、何の不安もないだろう。しかし、相手が強敵なら、当然不安になる。勝ちたいと思えば思うほど不安になる。



目標に向かうとは、常にこういうことなのだ。不安は絶対に消えないのだ。では、不安に負けそうになつてしまっているキミ。もう負けてしまつてしまっているキミ。どうしたらいいのか?

⑤不安を大きくしなければ生きられる。決して消えない不安であるが、付き合ひ方が一つだけある。それは、不安を大きくしないようにすることだ。不安が大きくなれば、戦つていけない。目標に向かって今日を生きていく

⑥不安を大きくしないためには、願望を大事にし、やるべきことをきちんと続ける。これが不安と付き合つていく唯一の方法だ。願望と不安は、表と裏の関係なので、表にあたる願望を毎日思い出し、「やるべきこと」という栄養を与え続けなければならない。不安を消そうとしてはいけない。「不安を抱えつつやるべきことをやる」これが唯一の望ましい在り方だ。

⑦心配性のキミ、傷つきやすいキミは行動で自分を支えろ。人間は、ちよつとしたことで傷ついたり、他人から言われたひと言が耳から離れなかつたりする。そういうことを何度も経験しているキミ。このままでは、一生くり返していくことになる。で、提案。イヤ、命令である。心配になつたとき、傷ついたとき、即行動しろ。毎日の生活でイヤな気持ちになつたら、すぐシャワーを浴びる。そうすれば、イヤな気分はとんで、自分の願望と向き合えるようになる。弱

気になつたら、志望校を見に行く。家から近いなら、毎日行つてもよい。五分お祈りをして帰つてくるだけ。軟弱泣き虫高慢さぼり屋のA子さんは、毎日志望校を見に行つて、目標に向かう努力屋に変身した。いつのまにか「この学校に合格したい」が「自分はこの学校に入ることになつている」に変わった。大学まで距離があるので、受験生には時間のロスが気になるが、電車の中は、暗記物がやれるわけだし、実質的なロスは一〜二時間で済む。週に一回見に行くだけでも随分と変わるものだ。

⑧学力も得点力も入試当日の朝まで伸びる。きちんとしたやり方で勉強を続けられれば、学力は着実につくるので、やり続けること。一方、得点力は分かりづらい。勉強しているのに、模試の点が伸びないと悲しくなる。でもあきらめる必要はない。得点をする力というのは、学力がついたあと模試や入試問題を前にして全力をあげて戦う中でゆつくりと身につけていくものなのだ。

●以上だ。新しい自分に会うために勇気を出せ! 燃えろ! (小林)



▼▲継続希望の方へ▲▼

▶退塾や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送りいたします。
▶在籍していた教室までご連絡ください。